

令和4年 第6回総務経済常任委員会会議録

令和4年4月14日 議員控室

○事 件

所管課報告事項

- (1) トンネル工事発生土受入協定の締結について（鉛川地区）（新幹線推進室）
- (2) トンネル工事発生土受入協定の締結について（富咲地区A）（新幹線推進室）

○出席委員（6名）

委員長	安 藤 辰 行 君	副委員長	牧 野 仁 君
	横 田 喜世志 君		大久保 建 一 君
	関 口 正 博 君		三 澤 公 雄 君

○欠席委員（2名）

宮 本 雅 晴 君	倉 地 清 子 君
-----------	-----------

○出席委員外議員（3名）

議長	千 葉 隆 君	赤 井 睦 美 君
	佐 藤 智 子 君	

○出席説明員（2名）

新幹線推進室長	吉 田 一 久 君	推進係	岡 島 孝 明 君
---------	-----------	-----	-----------

○出席事務局職員

事務局長	三 澤 聡 君	事務局次長	成 田 真 介 君
------	---------	-------	-----------

[開会 午前10時00分]

◎ 開会・委員長挨拶

○委員長（安藤辰行君） それではこれより第6回総務経済常任委員会を開催いたします。委員長挨拶ですが、今日は誠に忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。今日は報告事項が二つということですが、その他のほうで、三澤議員の肉牛のほうで勉強会をしたいという提案がございましたので、そんなに時間はかからないと思いますので、よろしく願いして挨拶いたします。

【新幹線推進室職員入室】

◎ 所管課報告事項

○委員長（安藤辰行君） それでは一つ目の事件に入っていきたいと思います。説明よろしく願いいたします。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 委員長、新幹線推進室長。

○委員長（安藤辰行君） 新幹線推進室長。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） おはようございます。

本日は昨年8月、本年1月に本委員会において、新幹線工事における対策土の受入地の決定に向けた手続きに移行すると報告しておりました、鉛川、富咲についてですね。このほど機構との協定締結に至りましたので、その報告であります。それでは係から説明させていただきます。

○新幹線推進係（岡島孝明君） 委員長、推進係。

○委員長（安藤辰行君） 推進係。

○新幹線推進係（岡島孝明君） それでは報告させていただきます。まず1番目、トンネル工事発生土受入協定の締結についてですが、まず鉛川地区からご報告いたします。

協定の締結日については、先月、令和4年3月2日に締結しております。相手方については記載のとおりであります。発生土の搬入期間としましては、進捗状況や天候により変更があるんですが、とりあえず令和7年3月31日となっております。

また鉛川、対象地の概要でありますけれども、位置については、八雲町鉛川45番の3ほか4筆であります。位置的には八雲町市街地から西へ約5kmの場所で、規模については発生土受け入れ予定量として、約10万㎡ほど予定しております。盛土面積については、約16,000㎡使用すると機構から報告を受けております。すみません。この表紙の裏に2枚、参考資料として付けております。1枚目が対策土の受入地概要と、2枚目が位置図であります。本日は特段、参考資料の説明はいたしません、参考としてご覧願います。まず一つ目の報告事項を終わります。

○委員長（安藤辰行君） ありがとうございます。

これについて質問はございませんか。ないようですので、次、お願いいたします。

○新幹線推進係（岡島孝明君） 委員長、推進係。

○委員長（安藤辰行君） 推進係。

○新幹線推進係（岡島孝明君） それでは続きまして富咲地区Aのご報告をいたします。

こちらの協定締結日、令和4年3月23日であります。相手方については同様です。発生土搬入期間についても先ほどと同様に令和7年3月31日までを予定しております。

富咲地区Aの概要でありますけれども、位置としては八雲町の富咲95番1です。八雲町の市街地から北西約13kmの位置であります。また、発生土受入の予定量としては、今のところ約5万m³を予定しております。また盛土面積については、富咲95番1の1、約11,000m²を使用して盛土する予定であります。以上、報告を終わります。

○委員長（安藤辰行君） ありがとうございます。これについても質問はございませんか。

○委員（大久保健一君） はい。

○委員長（安藤辰行君） 大久保さん。

○委員（大久保健一君） 富咲のほうは、搬入経路ってどこを歩いていくんですかね。

○新幹線推進係（岡島孝明君） 委員長、推進係。

○委員長（安藤辰行君） 推進係。

○新幹線推進係（岡島孝明君） 具体的にはまだ機構のほうと協議をして詰めているところでもあります。案として何点か提示されていますけれども、まだ確定はしていないということで、協議中です。

○委員（大久保健一君） はい。

○委員長（安藤辰行君） 大久保さん。

○委員（大久保健一君） 細かいところはいいんですけども、大雑把なのが決まったら教えてほしいんですけども。

○新幹線推進係（岡島孝明君） 委員長、推進係。

○委員長（安藤辰行君） 推進係。

○新幹線推進係（岡島孝明君） まずですね、この参考資料なんですけれども、道道42号、八雲北檜山線を檜山方向に走っていきまして、上八雲の十三曲がりというのがあると思うんですけれども。

○委員（大久保健一君） 昴のところ過ぎてから。

○新幹線推進係（岡島孝明君） 昴のところ過ぎて橋を越えまして、右折して入っていく道路があるんですけども、まずそこから上がっていきます。それでこの富咲Aまで登っていくんですけども、そこで土を降ろして、それで降ろしたのちに、インターファームの横を通過して、昴のほうから道道に向けて、まだ確定してないんですけども、そっちのほうを通過して戻ってくるという案と、もう一つ、山崎から富咲に抜ける林道があるんですけども、そっちらも持っていく予定と伺っております。

○委員（大久保健一君） わかりました。

○委員長（安藤辰行君） ほかに。

○委員（佐藤智子君） はい。

○委員長（安藤辰行君） 佐藤さん。

○委員外議員（佐藤智子君） 一つずつのほうがいいんですけども。

○委員長（安藤辰行君） いいです。

○委員外議員（佐藤智子君） まず、それぞれの協定書を議会に出してほしいということが一つ。それから、この今まで聞いたことなかったんですけども、この10万m³、5万m³やらは重さにすると何トンなのか、わかれば教えてください。

それと三点目ですけれども、見学会を行ってほしいんですけれども、というのが三点目です。四点目なんです、それぞれの場所に、どこの工区からの土が運ばれるのかというのを教えてください。以上、四点です。

○新幹線推進係（岡島孝明君） 委員長、推進係。

○委員長（安藤辰行君） 推進係。

○新幹線推進係（岡島孝明君） まず一つ目の協定書の件でありますけれども、議会から正式に要請がありましたら、対応させていただきたいと思います。

二番目については、立米を重さキログラム換算にしてほしいということですが、ちょっと機構に確認いたしますが、ある基準において計算されるものと考えておりますので、すぐに出ると思います。

三番目、見学会の希望、これは鉛川と富咲の見学会ということでということですが、機構のほうに要請というか、こういった要請があったということ報告したいと思います。

四つ目の、どこの工区から運ばれてくるかということなんですけれども、まず鉛川については、機構のほうから、盤石トンネル北工区と野田生トンネル南工区の2工区から搬入するという報告を受けております。

それで次に富咲Aなんですけれども、こちらについては、渡島トンネル上二股工区、野田生トンネル北工区、最後、立岩トンネル立岩工区の3工区から搬入予定と聞いております。

○委員外議員（佐藤智子君） ありがとうございます。

鉛川のほうは3月31日までが搬入期間ということですが、いつから運び込むというのは、わかっているのでしょうか。

それと見学会ですけれども、今、二つの工区について要望しましたけれども、もし可能であれば全工区回るような見学会も考えていただけるかということをお伝えいただけますか。

○新幹線推進係（岡島孝明君） 委員長、推進係。

○委員長（安藤辰行君） 推進係。

○新幹線推進係（岡島孝明君） まず、鉛川の搬入タイミングについては、具体的にいつからというのは、まだ機構のほうから報告はありません。その搬入の前に持っていく為に準備工ということであるんですけれども、そういったのが終わってから、正式にというか対策土を搬入するものと考えられます。

見学会の全工区のご希望なんですけれども、こちらについては機構のほうと協議していきたいと考えます。

○委員長（安藤辰行君） ほかに。

○委員（関口正博君） はい。

○委員長（安藤辰行君） 関口さん。

○委員（関口正博君） 今回報告の分、それと富咲B、Cこれからの候補地、対策土の受入として、以前も報告をいただいた気がするんですけれども、対策土の全対策土、予定されている、どれくらい●●できることになるのか、再度教えてください。

○新幹線推進係（岡島孝明君） 委員長、推進係。

○委員長（安藤辰行君） 推進係。

○新幹線推進係（岡島孝明君） 参考資料でお配りした黒岩AからC、鉛川、富咲A、候補地のB、Cも含めると、合計すると220万㎡のキャパがございますけれども、八雲町から

出る対策土は、今のところ 210 万 m³と機構のほうから聞いておりますので、その候補地も含めたら、対策土の処遇の目途が付くということでございます。ただ、現在、協定締結ベースでいきますと、今のところ 210 万のうち 130 万 m³でありますので、協定締結ベースでいきますと、61.9%の確保率ということでございます。

○委員外議員（佐藤智子君） すみません。聞き忘れたので。

○委員長（安藤辰行君） 佐藤さん。

○委員外議員（佐藤智子君） 鉛川について、先ほど準備工が必要でというお話でした。この準備工というんですか。それはもう始まっているんですか。

○新幹線推進係（岡島孝明君） 委員長、推進係。

○委員長（安藤辰行君） 推進係。

○新幹線推進係（岡島孝明君） 始まったという報告は受けておりませんので、おそらくこれから雪解けを待つのか、わからないんですけども、これからだと思います。

○委員外議員（佐藤智子君） はい。

○委員長（安藤辰行君） 佐藤さん。

○委員外議員（佐藤智子君） その準備というのは具体的にはどういうことなのか、道路整備なのか、搬入する敷地を整備するとかって、その具体的なことがわかれば。

○新幹線推進係（岡島孝明君） 委員長、推進係。

○委員長（安藤辰行君） 推進係。

○新幹線推進係（岡島孝明君） 今、佐藤議員がおっしゃった思っている内容で、おおむね間違いはないかなと思います。

○委員外議員（佐藤智子君） はい。

○委員長（安藤辰行君） 佐藤さん。

○委員外議員（佐藤智子君） その費用は全部、機構持ちということでいいんですか。

○新幹線推進係（岡島孝明君） 委員長、推進係。

○委員長（安藤辰行君） 推進係。

○新幹線推進係（岡島孝明君） そのとおりです。

○委員長（安藤辰行君） ほかに。ないようですので。委員会として協定書を。

○委員（三澤公雄君） あって損はないと思うんだけど。

○委員長（安藤辰行君） 提出してもらうということでいいですか。よろしいですね。

（「はい」という声あり）

○委員長（安藤辰行君） 協定書の提出ということでよろしく願いいたします。

ほかになければ、これで終わりたいと思います。

【新幹線推進室職員退室】

◎ その他

○委員長（安藤辰行君） それではその他ということで、三澤さんのほうから。

○委員（三澤公雄君） 今日は、案件が二つだったということなので、急遽、以前青年舎を立ち上げるときに酪農というものを分かってもらおうと思って酪農の勉強会を開いたんですけども、今度は肉牛の勉強会のきっかけを今日、時間をいただければと思ひまして、今

日は、ちょっとあとにもいろんな予定が控えていますので、今日お渡しした資料を含めて5分くらいお話しせてもらったらいいかなと。それで次回、適当な時間を見つけて、議員の皆さんに肉牛牧場というか、そういった話をしたいなと思います。

まずは、八雲の現状をお話します。八雲でも肉牛を扱っている、いわゆる今ここでいう肉牛は黒毛のことです。北里八雲牛のような茶色い牛や、ホルスタインの雄の肉のことではなくて、黒毛のことをちょっと今回は肉牛と総称させていただきます。八雲の現状では僕のデータでは令和3年度27戸、これは八雲支店の集計なので長万部の農家も入っています。27戸の農家が繁殖の、経営として黒毛を飼っています。この農家は27戸すべて素牛として出荷しています。素牛というのは、これから山地いわゆる有名なところでは田島だとか松坂だとか、そういうところに飼われて行って、専門の技術で肉を付けていく。そのための基礎となる約9カ月前後の牛を出荷する。モーと生まれてから9ヶ月預かって出荷する農家だけです。八雲にいるのは。

それで令和3年度の平均では約75万円で1頭当たりで売っています。これは、ほぼほぼ市場の平均価格です。場合によっては平均より下回っているかもしれません。だから今、総じて去年、飼料価格が高騰するまでは、かなりうま味のある、この値段を維持したらうま味のある商売になるんですけども、ご存じのように市場価格が上がってきたら、より市場に求められる素牛を作っていないと、この素牛出荷農家も利益が減っていくので。

一方でホルスタインの農家、絞っている農家にもメリットがあるんですけども、八雲の農家のうちの4分の1くらいしか黒毛を関わっていないというんですか。どうやって関わられるのかといたら、おなかを貸すんです。受精卵移植という技術が牛の世界ではほとんど庭先の技術になっています。価値のある黒毛の受精卵をホルスタインのおなかの中に入れる。そして生まれた子どもを素牛、育てる農家が受け取りに来ると。だからモーと生まれただけで約20万ちょっとくらいの利益になる。そして出産をしたわけですから、お乳を搾れるという意味で、酪農家にとっては、子牛を預かる手間をかけなくていい。というメリットがある。

これが上手に回っていくためにも、上手にというか、先ほど言った、まだ言っていません。素牛生産が市場に求められる価値のある素牛を作る。今、市場でぎりぎり認められるので市場平均価格しか取れてないんですけども、実際に300万とかという値段、この2月にまた記録が出ました、十勝市場で、素牛、同じ9ヶ月で、デジタルの表示板がどんどん動くんですよ、378万とか、これは要するに持っている牛の能力が評価されてる。そういったデータをとれるようになりました。勉強さえしたら。

ゲノム解析して、この牛には将来、そのとき市場で求められるサシの入り方だとか、一方で牛肉の中にホルスタインだとかには、なかなか入らないんですけども、黒毛和牛の脂の中には健康にいいというオレイン酸、不飽和脂肪酸。オレイン酸が遺伝によっては、かなりそれを割合を高くする遺伝子というものも今、特定されています。そういったものも先ず勉強して掛け合わせしていくことさえできていけば、八雲の素牛生産も、もっともっと利益になる。そして酪農さんももっともっと借り腹としてもメリットがある。

そういったデータを地元で作るためには、地元でも肉牛まで生産して、自分の掛け合わせた素牛が、どんな結果になるかというデータを取っていないとならない。それは一連のその牛の能力を検定する。体格とかは生きていうちはいいんですけども、肉の質は命を、

屠殺して分析しなければいけないので、そのあとそれを推定して掛け合わせしていた次の世代の娘や、息子のデータも取ってということで、約5年くらいかかって出てくるのが育種価という、今日お配りした資料でも、その部分に触れている資料になっていると思いますけれども、新しい手票が北海道でつくられたものがあるんです。

それは増体量や環境、使用技術によらないで、その牛が本来持っている肉となる性質を、いろんな係数で出してきたものなんですけれども、そういった勉強してこそ身に付けられる技術というのも一貫経営して、八雲で作られた素牛が、肉を付けて割ってみて、どんな評価になるかという蓄積をしていかなければならないのですが、27戸の素牛生産農家の中で、今1件だけ先ずそういう勉強されている農家さんがいらっしやいまして、彼の生産する素牛は市場でも高く評価されつつあります。

次の時代の種牛に選定する候補に、その候補の候補に選ばれるという段階に声がかかっている段階なんですけど、今日この肉牛の勉強を始めるきっかけというのは、3年前に青年舎の立ち上げのときに、僕もかなり夢をもって皆さんにお話しました。実際にこの去年の4月に稼働したんですけれども、決定的に欠けていたのは、そこを夢をちゃんとになって、運営していく人材を、あとからなんとかなると思ったんですよ、夢さえ持っていたら。

しかしこの1年間見たときに本当に申し訳ないんですけども、そこに誰を据えるかというところで、ちょっとこの1年、数字的には、経営の数字的には悪くないんですけども、たとえば町長と同じように夢を見るという意味で後継者を育てる。研修牧場としての役割を果たすだとか、地域にどう貢献するかというところで、同じ夢を持っている人材を充てなかった、充てることを簡単に考えていた。それで、青年舎1年間遠回りしたと思います。

今回、この肉牛、牧場って表現しますけれども、先ほど言った夢を持っている。それで八雲のブランドを作りたいと考えを持った素牛生産農家さんが、勉強されている農家さんがいるということを前提に考えていました。だから議員の僕たちが、ちょっと肉牛っていうものの現状だとか勉強するきっかけを、今日からスタートさせてもらえたらなど。

それで青年舎の反省を活かして、ちゃんとした人物を中心に据えて、そしてよりお金のからないかたちで肥育牧場というものを、考えられるというシミュレーションが出来上がりがりつつありますので、それも勉強の途中途中で皆さんと共有して、また同じ夢を持っていけたらなと思って考えていました。

今日はお配りした資料は、今年行われる鹿児島県の共進会の載せた新聞ですけれども、5年後に北海道大会があるんです。それに向けてギリギリのスタートラインかなと思いますけれども、ちょっと余談になりますが、この共進会は、いわゆる品評会、美人コンテストと表現しますけれども、第2回のホルスタインの全国品評会は昭和26年にありました。そのときの種牛の部で、準優勝になったのは八雲の種牛なんです。これがきっかけで、いわゆる言葉として今残っていますけれども、北海道近代酪農発祥の地、八雲って言うのは、なぜなのかというのは、第2回の共進会でトップクラスの数字を残した種牛がいたと。それで八雲に学ぼうという流れがここでできたということがありますので。

今、皆さんと一緒に勉強して肥育に関して、いわゆる八雲の肉牛のブランドを立ち上げるきっかけとしては5年後の北海道の共進会を目指して、動くギリギリのタイミングだと思っていますので、皆さんと勉強したいと思っています。是非、よろしく願いいたします。今日はこの辺で終わります。

○委員長（安藤辰行君） ありがとうございます。

この件はこれでいいですか。

○委員（三澤公雄君） はい。何か特別、質問したいことがあれば。若干の受付はしますが、第2回以降、もう少しわかりやすい資料をそろえて、この総務経済常任委員会で皆さんと時間を共有したいと思っています。

○委員長（安藤辰行君） この次の委員会。

○委員（三澤公雄君） また委員長と話しながら、スケジュールの空いているときに考えていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○委員長（安藤辰行君） 今、三澤さんのほうから質問がありましたらということでありましたので。質問がありましたら。

○委員（関口正博君） はい。

○委員長（安藤辰行君） 関口さん。

○委員（関口正博君） 肉牛のことはごもっともだと思います。これから成長産業、ますます成長産業になると思いますので、勉強する機会があります。今の三澤さんのお話で青年舎のお話が出ていました。なかなか青年舎の情報というものが我々の中に入ってこない。●●していた佐藤さんという方がお辞めになられたというのは報告を受けていました。人材の部分に関して、当初からそのことは問題提起していたんですが、2回くらい委員会なりなんなりで、人材のことを言ったら、あなたは経験不足だからわからないって町長に言われて、それ以上何にも言えなかったんです。実際そのようなことになって。

これからサーモン養殖事業も似たような形態でやるわけです。この人材という部分、先ほど道の出向の職員の方、挨拶に来ておられましたけれども、要は現場で働く人間というものはあまりにも、もちろん考える頭をそろえるのはすごく大事なことで、実際に動く人はもっと大事で、そういう部分というのもしっかりと手分けしながらこのような事業を進めるとい、先ほど三澤さんは反省と言いましたけれども、そのような反省がこれからのサーモンに活かされるのかなというのが、まず不安なことと、それで知っている範囲で教えていただきたいのですが、研修牧場、今年バイオの工事、着工される。

○委員（三澤公雄君） ガスね。

○委員（関口正博君） それができたら正式に、あれだけのキャパに相応するだけの頭数を入れて本格稼働だという報告は受けております。ただその人材がいない中で、人材の手当て、今後の予定は三澤さんが知っている限りで何か情報を持っているんですか。

○委員（三澤公雄君） スタートのときに、佐藤さんって方、やる気を評価し、上層部のほうで口説いた関係もありましたから、期待する以外なかったんです。だけど実際に僕も研修協議会という、研修される方のマネージャーというか、いろいろ支える役割を担うことになったんです。そのときになって、その佐藤場長の中にそういった夢がなかった。これはあとからわかったんですけども、二つ返事で受けてもらったのに、人を育てるといのは自分の念頭にはなかったということ、なられた後に口にされたので、それが僕は今となっては、人選に僕は関わってませんでしたけれども、反省点なんです。

それで、この肉牛もできれば青年舎の中に肉牛部門をと思ったんですけども、そのことも佐藤さんはじめ、当時の執行役員のいわゆる酪農家の中では、まったく取り付く島もなかったもので、一緒に始められなかった。それで仕切り直しということで、別な人材を見つけな

ければいけないということで探したときに、八雲の中で1軒だけ、今の時代に合う勉強を先ずされて、自分が販売した素牛の、飼ってもらった農家さんに協力してもらってどんな肉質になったのかというデータも、あとからぼっていつてるんですね。こういったことをやられている農家さんでも僕は彼しか知らないです。

そういった意味で青年舎の反省として、僕の中では思っているんです。サーモンは僕。不勉強なので、町長は株式会社さん、青森の。町長なりに青年舎の反省が、株式会社さんを利用するということだったと思うんですけれども、僕は地元の中で、それに役立つ人間がいるうちに、もう一度、第二の青年舎みたいなかたちで立ち上げるきっかけになればいいかなと思っ勉強したいということです。

○委員（関口正博君） もう一つ聞かせてください。

それを27軒の肉牛の生産ということでしたよね。それでそういう有能な方々がいらっしゃる。そして僕も知っている限り随分若い方々が肉牛に関わって、いろんな方が参入されてきていて、八雲も結構活発に動いていると把握しています。それで、青年舎の中で佐藤さんって方が肉牛に関しては、後ろ向きだというのは、話ありました。

あれだけの建物で、たとえばこの27軒の有能な酪農の方々、有能というかやる気のある方々に、その場所を提供するという、人材がいなくてかいるとか、町長は採算が合わなかったら簡単に方向転換するっていうのは常々言っていますが、そういう可能性とか、そういう声はどうなんだろう。ぜひこの施設を使わせてくれって。

○委員（三澤公雄君） 今、一回目の質問で、答弁足りなかった部分を今、思い出したんだけど、今現在、青年舎の中では、吉田副町長が社長になられて、それを支える意味で、元酪農を経営しながら農協職員で次長までやられた地元の人材も入れて、今、そういう意味で人材の不足の部分は補っています。マネジメント含めて、牛舎の中のマネジメント。

その中で、やはり施設を最初から全部作ってスタートしたので、正直空いているわけです。先ほど説明したみたいに9ヶ月で生産になる素牛出荷ということも、人が入れ替わったらすぐに取り組んでいます。だから今は青年舎の中で黒毛の種を付けるか、もしくは販売されている受精卵を買ってきて借り腹にするかということが、もう実際に動き始めていますので、今、その空きスペースを肥育農家の有志たちで集まって、場所を貸してくれっていう余裕はなくなってしまいました。

それは本来ならスタート時点から青年舎は取り組むべきことだと思っ、僕らも思っただんですけど、たまたま当時の取り仕切る方は、徐々にホルスタインで埋めていけばいいという選択をされたので、結果的にそれは間違いだっということが共通認識されたんですけども。

○委員（関口正博君） 青年舎の中でもしっかりと戦略、この短期間で

○委員（三澤公雄君） 今も当初の計画どおり、もう一度仕切り直ししていこうというのが新体制になってから動かれているので、将来的には、将来的にというかもし構想どおり肥育に向けての会社が立ち上がったら、そこでの有能な受精卵を、青年舎さんはじめ、地元の酪農家に先ず回してく。一回に受精卵は10個も15個もできるんですよ。ホルモン入れて多排卵させて、精子を注入し、受精卵。そして本牛には1個だけ残して残りは冷凍保存し、適当な時期に付けていくと。そのサイクルが順調に動けば、八雲で産出する素牛の平均価格も

上がっていくだろうし、いずれはブランドを確立するところまで行くということは視野に入れながらやっていきたい。

ただ、その前段の話は、いきなりそんな話されても、予備知識がないと三澤に騙されてると思われてもあれだから、徐々に勉強、肉の勉強、僕もホルスタインより血統の掛け合わせの技術とか技能というのが高いので、いわゆるサラブレッドみたいな。馬に詳しい人はいろんな父型とか見て、馬券を買うといますけれども。ホルスタインでは全く僕は必要な知識とか、あまり求められてなかったのが全然追いついてないんですけれども。

○議長（千葉 隆君） 一つだけ。

○委員長（安藤辰行君） はい。

○議長（千葉 隆君） 肉牛の黒毛和牛という部分は、これから勉強するというけども、やっぱり青年舎の研修施設、あれは青年舎のためだけの研修施設じゃないでしょ。八雲町が出資して、八雲町全体の酪農家に恩恵を受けるということで研修牧場を作っているわけだから。そこでJAも含めて三澤さんも研修協議会のマネージャーやってるって今、初めて聞いたんだけどもやっている。そうであれば、青年舎の中での問題もあるかもわからないけれども、やっぱり研修協議会を中心にして、その中で研修牧場も八雲町が出資してるんだから、こういう黒毛和牛もやっていますということで、総務経済常任委員会に報告するならいいけれども、なんか違ったらあれなんだけれども、青年舎は、青年舎と別なものを作ってやるという新たにね。そういう発想にはまずならないんじゃないのかなって思うんだよね。

それでないと、やっぱり今、町民の人達とか、とりわけ酪農家の人達も、研修牧場は税金使ってやってきてるから、全体の部分で活用できるというような認識だと思うんだよね。だから今、たとえばゲノム解析だとかというの、主体的に研修協議会を中心にしてやっていて、どうのこうのっていうふうに普通なるんじゃないかなと思うんだけども。

最初の部分でいうと、今この27軒あるというのが1軒あって、その人たちを中心にまた別なものみたいな感じのイメージを受けたんだけども、その辺はまだはっきりしてないんでしょ。

○委員（三澤公雄君） 今、シミュレーションされているのは、今日ちょっと時間がもうちょっとかかっちゃうけれども、青年舎みたいに建物を建てて云々というやり方ではなくて、やっぱり肥育が始まると肥育のスペースや、それに向かう素牛をこの順々に飼っていくスペースが、今の青年舎の建物の中では、今のホルスタインの流れだけでいっぱいなので、今考えているのは、酪農家が使っていない牛舎というのが今、離農で、畑は最後全部みんな使いやすい畑はどんどん使ってるんです。逆に牛舎が残ってる。

それで、そういった使える牛舎を肥育がいきなり何百頭で始めません。どうシミュレーションしても肥育ってリスクが高いので、2年間余計飼うわけですから。だから今ある勉強されている農家さんの規模をベースに考えたときに、年間素牛出荷頭数の4%から5%を、頭数でいったら4頭で、4頭を肥育ラインに回す。9カ月で売れるものを売らずに、10ヶ月目の肥育を始めるというスペースを、牛を置いておくという、これが一番リスクがない。4頭くらいの頭数が。そういった小さい規模でやるので、酪農家が使わないという牛舎を、協力してくれるところを見つけてやっていく。だから施設には補修で若干かかるんですけれども、立ち上げ段階では。

○委員（千葉 隆君） どこでやってもいいんだわ。どこでやってもいいんだけど、人材を育成するというのは研修牧場で、青年舎の乳牛の部分も含めて、そっちも税金投入してるから、そこについても地域に還元すると言って税金かけたから。

だからさっき言ったように誰がやるのか中心だと言ったけれども、ちょっと反省点が。実際に。だから、俺が言っているのはどこの組織がそれをやるんですかっていうこと。だからそれまで、その青年舎の反省というけれども、青年舎は地域に還元しますって。八雲町にも投資した部分は固定資産税で返すよって。だから乳牛のメリットもやりますよって。それから人材育成の部分では研修牧場でやりますよって。だから税金だよと。そこだけに。

だから、もっと自前でやっている農家さんと差別化したわけだ。メガ牧場、何軒かあるわけだけど。でもそこだけには町が特別税金やったって。だからそこはその部分で地域に還元するんだって。それで今、三澤さんが言ったように、肉牛、だからそこで、ある程度、せっかく研修協議会とか作ってるんだから、そういう青年舎も含めて、そこに理解してやってもらえるというか、そこをまず詰めていかないと、また別組織ってなるとどうなのかなって。今まで言ってた部分でどうなのかなってという部分がまた出てくる。

○委員（三澤公雄君） 方法論はもうちょっとあとでもいいと。その前に肉牛の勝ちがわからなければいけないと思って、その前に肉牛の勉強会に入ろうと思ったんだけど、ちょっと喋りすぎた部分があるので。ただ、今、議長がおっしゃったようにそこが理解しても最後の出口どうやって作るのかというのがまた青年舎みたいなのを作るのかという話になるんだったら、肉牛のことは理解してそこになるんだったらそこだけの勉強でもいいんだけど、まず僕は肉牛が、なぜ肥育の牧場が必要なのかというところの勉強がまずないと駄目かなと思ったので、今日をきっかけにしようと思って。後ろのどうやって立ち上げるかは、まだまだ、いろいろ考えられるので。

○議長（千葉 隆君） 立ち上げるっということに。

○委員（三澤公雄君） 議長さんがおっしゃったように青年舎の中でできれば一番いいんだけど、青年舎の中でやるのは今の体制の中では難しいので、どうしても肉牛の責任者と、肉牛を作り上げるシステムだけは、別に、それが建物が別ということではないと。今言った組織の管轄だとかということまでは考えてなかったんですけれども。ただ統括する責任者というものが、絶対に肉はまた同じ牛でも違うので、その人材は少なくとも八雲の中で見つけているので、今、立ち上げたほうがいいかなということでも勉強会スタートということでもあります。

○議長（千葉 隆君） そしたらホルスタインは青年舎で、黒毛和牛は別組織で作るというイメージ。

○委員（三澤公雄君） 別な責任者を置いて、ちゃんと一貫の生産を管理する。人を育てるという部分では研修協議会と一緒にやることは今は全然想像できるんだけど、肉を仕上げまで持っていく、ちゃんと素牛を市場に求められる素牛に変えていくというところは、今の青年舎の人材ではなくて、それに長けた人材を充てないと反省にならないのかなと思って、今、スタート切れるところまで行ったので、じゃあ肉の大切さというか肉の有効性を勉強しなければいけないなと思って始めようかなって。

本当にあまりお金をかけないでというのはスタートで大事にしていますから、肉の重要性が、この議会の名である一定レベルで皆で共有できたら、じゃあこういう組織にしたほう

がいいという議論ができるのかなと思う部分ですよ。けどまだベースの、なぜ肉が必要なのかという部分に温度差とか知識の差があったら、青年舎のときみたいないろんな意見、先ほど関口さんがおっしゃったように、今まで海のことをわかっても牛のことはわからなかったけれども、少なくとも勉強会をやったから発言できる環境になったのかなと思うので。

○委員長（安藤辰行君） そしたら、もう少し肉のね、肉牛の勉強してから。

○議長（千葉 隆君） イメージ的にね。

○委員（三澤公雄君） はい。単純なサシの問題でなくなってきたのが、この1、2年出てきたので、今日そのことがわかる新聞のものを持ってきたから、出だしの勉強はそれが一番いいかなと思って、そのことをちゃんと勉強している人材が八雲にいるというラッキーなこと。そこまでは共有してスタートしたいなと思いました。これからよろしくお願ひします。

○委員長（安藤辰行君） それではまた。よろしいですか。

（「はい」という声あり）

○委員長（安藤辰行君） この件はこれくらいにして、ほかに。その他ありませんか。

○議会事務局次長（成田真介君） はい。

○委員長（安藤辰行君） 事務局。

○議会事務局次長（成田真介君） 次回の総務経済常任委員会なんですけれども、5月12日木曜日10時の予定ですけれども、どうでしょうか。

○委員長（安藤辰行君） よろしいですか。

（「はい」という声あり）

○委員長（安藤辰行君） それではこれで終わりたいと思いますので、ありがとうございました。

[閉会 午前10時50分]